

令和元年度 卒業式



中里高校



中里高校

新型コロナウイルス感染症が国内でも猛威を振るう中、中泊町内の計7校では、飛沫感染防止策を講じるなどして、令和元年度の卒業式が行われました。

中里高校では3月1日(日)に行われ、出席者全員分のマスクを学校側で用意し、会場内では座席の間隔を広くとったほか、国歌と校歌はCDで流す対応などをしました。

式には、卒業生13人と在校生、来賓など約100人が出席し、卒業生の佐々木向日葵さんは「私たちだけの式では寂しいが、みんなで卒業式に出ることが叶ってうれしい」と答辞で心境を話しました。



小泊中学校



中里中学校

中里中学校と小泊中学校では3月13日(金)に行われ、在校生と来賓は出席せずに、例年の式次第から変更して行われました。同様に、3月19日(木)には武田小学校、薄市小学校、小泊小学



中里小学校

校で、3月20日(金)に中里小学校で行われました。

各小中学校では新型コロナウイルス感染症対策として、3月4日(水)から3月26日(木)まで臨時休校だったことから、卒業式の練習時間が十分に取れなかったにもかかわらず、卒業生たちは堂々と胸を張って式に臨んでいました。

その様子を目の当たりにした教員は感心して、凛々しい卒業生の姿勢から成長を感じ取っていました。



武田小学校



薄市小学校



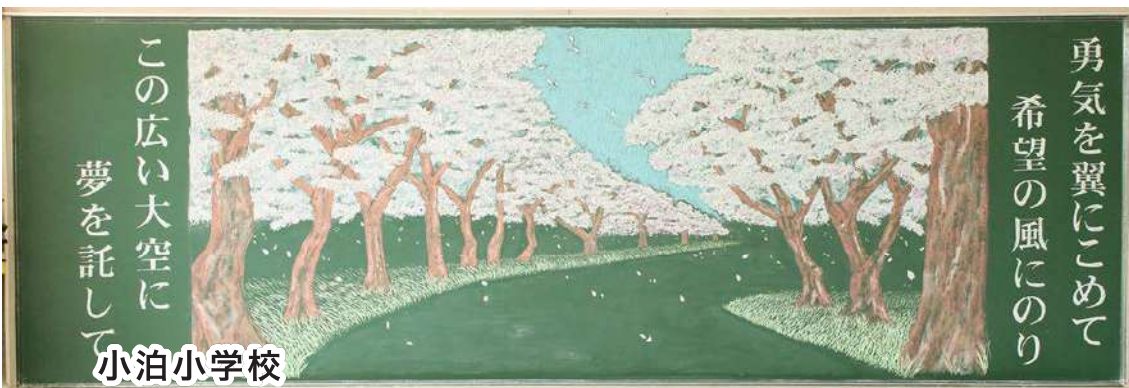
小泊小学校

また、例年、在校生が主体となって進める式場準備や飾りつけなどは、教員が手分けして行っていました。特に、薄市小学校と小泊小学校では、黒板一面を使った黒板アートが用意されま

した。そのほか、卒業生の保護者有志が協力した花の贈呈も見受けられ、令和最初の卒業式は、卒業生を祝う思いが、しっかりと形に現れていたのではないのでしょうか。



薄市小学校



小泊小学校

事業継続力の強化のために

第2回中泊町・青銀アグリセミナー

甚大な被害をもたらす自然災害への備えと、人員確保や建物設備、資金繰りなどの事業継続力に焦点を当てた第2回中泊町・青銀アグリセミナーが2月20日(木)に役場で開催されました。このセミナーは青森銀行の協力のもと行われています。

昨年に引き続き2回目となる今回は、地域人材育成や企業活性化を手掛けている農林水産省職員の佐藤浩介さんが、「高まる自然災害等のリスクと事業継続力強化に向けた取組」と題して、緊急時に備えて平常時から行うべき手段を決めておく事業継続計画(BCP)の講演を行い、参加者たちは講演の内容に聞き入っていました。



4クラブが初めて連名で

町へ小学生用にライフジャケット寄贈

つがる、鱈ヶ沢、五所川原金木、そして中泊の4団体のライオンズクラブが、今年から連名で寄贈を行うこととなり、2月26日(木)に各クラブ代表が米塚教育長のもとを訪れ、目録を手渡しました。

中泊町はその第1回目で、37個のライフジャケットが贈られました。ライフジャケットは防災用のほか、体験学習などでの活用が検討されています。

観光推進を計画的に取り組むために

青公大が観光ビジョンを提出

連携協定をきっかけにして、「中泊町観光ビジョン」の策定を手掛けた青森公立大学(学長・香取薫)が、2月26日(木)に完成報告のため役場を訪れ、香取学長から濱館町長へ成果品が手渡されました。

この観光ビジョンは、同大学学生も携わり、検討委員とのワークショップで抽出された意見が広く取り入れられています。本計画の期間は令和2年度から令和6年度までで、第6次産業の振興と観光・交流事業を通じた新たな産業と雇用の創出を軸に、グリーン・ツーリズムや滞在型観光の推進、メバルやビーチサッカーなどの地域資源の磨き上げの推進などの内容が盛り込まれています。



住民同士でささえあうまちを考える

第5回ささえあうまちづくり講演会

住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らし続けることができるように、住民同士でささえあうまちづくりを考えることを目的として、5回目となるささえあうまちづくり講演会が2月27日(木)に総合文化センターパルナスで開催されました。

第1部では、「住民とともに取り組む町づくり」と題して、住民主体で取り組む「駅ナカ学校」や「百歳体操」の日頃の活動の報告がされました。続く第2部ではIIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」の代表の川北秀人さんによる「まち・むらの課題を、まち・むらの力で解決するために」と題した講演が行われ、人口減少・少子高齢社会を迎えた今、各団体ごとに行事を行うのではなく、地域の変化を見越して地域全体のために取り組む必要があるとの内容に、参加した人たちはうなずいて聞き入っていました。

思い出語り地元を懐かしむ

中泊町出身者の「津軽・東京吹雪の会」開催

首都圏在住の中泊町出身者が集う「津軽・東京吹雪の会」が、2月22日(土)に上野精養軒(東京都)で開催され、約60人が参加しました。開会で長利秋由会長が「今年も出席ありがとうございます。令和最初の吹雪の会をみんなで盛り上げていきましょう」と述べました。

中泊町からは、濱館町長と長利議長があいさつしました。懇親会が始まると、積もる話に花を咲かせてにぎわい、中泊町の特産品が当たる抽選会で一層の盛り上がりを見せ、また宮越家ステンドグラスの映像上映では多くの人が見入っていました。



大きなケーキをみんなで囲んで

荒井ツエさんが100歳顕彰

素敵な笑顔が輝かしい荒井ツエさんが、入所先の特別養護老人ホーム幸で100歳の誕生日を迎え、3月30日(月)に濱館町長が訪れて顕彰状が贈られました。

荒井さんは若いころ、和裁や編み物が大好きで、手を休ませるのがもったいないという考えで、いつも何かしていたそうです。現在は、食べ物の好き嫌いはなく、レクリエーションではかるたの読み手として、みんなを楽しませているそうです。顕彰状を受け取った荒井さんは「涙が出そうなくらいうれしい。

ありがとうございます」と感謝の気持ちを話しました。長女の若山和子さんは「100歳を祝えて大変うれしい。いつまでも元気で過ごしてほしい」と話しました。



10年の活動に感謝をこめて

金多豆蔵応援隊の会に感謝状

金多豆蔵人形芝居を応援し、盛り上げようと平成22年4月から活動を続けてきた「金多豆蔵応援隊の会(代表・松田喜久代)」が、駅ナカにぎわい空間を拠点とした活動を休止することを受け、3月31日(火)に濱館町長からこれまでの活動に対する感謝状が贈られました。

感謝状を受け取った後、駅ナカにぎわい空間では、駅ナカ管理運営委員会(委員長・夏原謙二)有志が企画し、ファンや有志が集まって「ありがとう感謝祭」が開かれました。「金多豆蔵人形一座」主宰者の木村巖さんは「みなさんの応援に非常に感謝しています」とこれまでの活動と支援に対して感謝の気持ちを伝えていました。



就任のあいさつに訪れる

渡部裕介小泊診療所長が表敬

令和2年4月1日付けで小泊診療所所長に就任した渡部裕介さんが、4月3日(金)に濱館町長へ表敬訪問をしました。

渡部さんは「町民に信頼されるよう職務を全うしたい」と意気込みを話しました。

